

豊田工業大学 卒業式・修了式 学長告辞

本日、豊田工業大学から、学士、修士、あるいは博士の学位を授与された皆さんに、心からお祝いを申し上げます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年度、学部を卒業された皆さんは93名、修士課程を修了された皆さんは43名であり、博士課程を修了された皆さんは4名です。

皆さんはこれまで、学修面では体系的な理解を獲得するために、研究面では独創的な成果を生み出すために、努力してこられました。そして、課外での活動も蓄積しておられます。この間に、困難な場面にも遭われことと思います。皆さんはそれらを乗り越え、今日の晴れの式に臨んでおられます。これまでのご努力に敬意を表します。

皆さんは、明日から、新たな環境で新たな挑戦を始めることとなります。若干の不安もおありでしょう。でも、大丈夫です。本学に入学なさった頃には出来なかったことを、これまでに幾つも成し遂げてきた経験は、皆さんの自信へと進化していて、新たな挑戦にも十分に立ち向える力となっているからです。

ここに、学士課程をご卒業になる皆さんの多くは、2020年4月の新型コロナウイルス感染症第一波の中でのご入学となり、久方寮への入寮は、急遽、控えて頂くことになりました。入学式も挙行できない状況となり、講義等の開始は5月の連休明けまで延期させて頂き、その間に遠隔授業の準備を進めて頂きました。当時、本学の学生の皆さんは、空間的には全国に広がっておられました。そこで、せめて時間的には、本学全体が一体である状況を作りたいと考え、遠隔授業は、オンデマンドとはせずに、時間割通りに進めることに致しました。

修士課程を、修了になる多くの皆さんは、学部3年生の新学期から遠隔授業となり、学部を卒業になる皆さんと同様に、2020年11月まではキャンパスにお入り頂くこともできませんでした。博士課程の院生の皆さんや卒論と修論の研究を実施中の皆さんには、夏休み中までに研究室に戻って来られるように出来ましたが、この間、学生の皆さん全員に、大変な、ご苦勞をお掛け致しました。今日に至るまでのご協力に、改めまして、感謝いたします。

さて、最近の話題のひとつに、人工知能技術の大きな進展があります。特に、生成AIの進展です。米国ベンチャー企業が提供するGPT-4は、使用者からの様々な問い掛けにほぼ瞬時に応答して、如何にも自然な文章を返してくれます。小説も書けますし、プログラミングも得意です。また、動画映像までも作成してしまいます。しかし、私たちの問い掛けに対してAIからよりの確な回答を得るには、的を射た問い掛けが必要とのこと。時として誤りを含んだ答えを返してもきます。さらに、悪意を持った使用法も横行していて、有名人と見間違えう表情を見せつつ、偽りの言葉を述べる動画すら拡散されています。

良い活用法をもって AI に接すれば、「素晴らしく有能な友」にもなりそうです。しかし、一方で、社会に大混乱さえ起こしてしまう可能性も含んでいます。このような人工知能と共存する時代には、私達には、これまで以上に、「論理的記述力」や「真偽を見抜く力」が求められます。また、「確固とした倫理観」も求められます。騙される存在にも、ましてや騙す存在にも、なりたくはありません。つまり、強力な AI の時代には、私達には、これまで以上に「自ら考えて行動できる存在」であることが求められると、痛感します。

工学は、「その成果を社会で活用して欲しい」という意思を持った学問です。つまり、工学の成果は社会を直接変え得るのです。歴史的にも大きな社会変革を起こした技術が数多くあります。生成 AI もその仲間入りを果たそうとしています。工学に携わる私達には、「成果物が創る未来を想像する力」と「その未来社会に責任を持つ力」とが求められます。AI の急速な進歩とともに、このような「技術者倫理」が、より強く求められる時代になってゆきます。

ところで、古代ギリシャでは、後にラテン語で「アルテス・リベラレス」と呼ばれる知識が学ばれました。「リベラル・アーツ」という英語の語源です。この知識は、「奴隷」ではなく「自由市民」が社会の指導的役割を果たす人間になれるよう」学んだ、と言われます。「奴隷」が存在していた時代に「自由市民」であるために学んでいたと言われると、大いなる違和感がありますが・・・。

人類の能力を AI が凌ぐ時点「シンギュラリティ」が来ると言われますが、その時点へ向かう速度は加速しているようです。私たち人類が AI に頼り過ぎるなら、私たちは「自ら考える力」を鍛える機会を失い、この力は退化して、AI の「奴隷」になることが運命付けられた存在になってしまう気がします。だから古代ギリシャに倣って「そうならないために学び考える」、というのではなく、人である以上、「学び考えることが習い性となった存在」で在り続けたいと思います。パスカルは「人間は一茎の葦のように弱いけれど、その「尊厳」の全ては「考えることの中」にある」と言いました。「人間は考える葦」なのです。

さて、この瞬間にも地球上の複数個所で戦火が続いています。「多様性の尊重」が叫ばれていまですが、これは、つまり「個性の尊重」であり、それは「人間の尊厳の尊重」であり、その根幹は「命の尊重」であります。しかし、その「命」が、何と、軽んじられ続けていることでしょう。

ご存じの漢詩に、こうあります。「國破れて 山河在り、城春にして 草木深し、時に感じては 花にも涙を濺ぎ、別れを恨んでは 鳥にも心を驚かす、烽火 三月に連なり、家書 萬金に抵る、白頭を搔けば 更に短く、渾て簪に勝えざらんと欲す。」唐の詩人・杜甫が、8 年にも及んだ安祿山の乱の最中 757 年に長安で詠んだ五言律詩「春望」です。この乱での死者数は、当時の世界人口の 5% にあたる 1,300 万人に及ぶとも言われています。中国・唐の時代に限らず、世界の全ての地で、有史以来、人は戦いに明け暮れて来ました。今日、大きな戦いが起こ

れば、「山河」も「草木」も全て消滅するでしょう。人は「多様性の尊重」と言い乍ら、「命の尊重」ですら、未だ出来ていないのです。そんな人類ですから、「自ら考える力を退化」させてよい筈など、決して、ないのです。

皆さんは、本学での学修・研究活動において、「理解」と「研究」を追求する中で、「論理的思考力」を鍛えられ、「自ら学び考えることが習い性となった存在」へと近づいて来られました。その力を、今後とも、多方面に伸ばし続けて頂き、到来する AI の時代においても、これを「素晴らしく有能な友」として共存できる力と、「確固とした倫理観」を備えた「地球市民」として、「世界の平和を希求して止まない存在」にも、なって頂きたいと願います。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として 1981 年に開学し、関連企業の皆様方からのご支援に支えられつつ、教育と研究にて、自由で闊達な活動を展開して参りました。感染症の影響で皆さんがキャンパスに居られなかった 2020 年夏には、7 年を掛けたキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新され、翌年には開学 40 周年を迎えています。今日、晴れの日を迎えられた皆さんにも、ここ数年は、この新たな教育・研究環境を活用して頂くことができ、有難く、また嬉しく思っております。ご関連の皆様方からのご支援とご鞭撻に、改めて、感謝申し上げる次第です。

豊田工業大学の「山椒は小粒でもピリ辛い」存在感は、もっと高めてゆけると信じています。本学大学院に進学される皆さんには、「ピリ辛い存在感」の向上に引き続きご協力を頂きたいと思えます。社会でご活躍になられる皆さんには、本学の応援団になって頂きたいと思っています。

あらためまして、ご卒業・ご修了、誠におめでとうございます。

2024 年 3 月 15 日

豊田工業大学 学長 保立 和夫